



国立アイヌ民族博物館 第10回特別展示

「開館5周年記念 ウィーン万国博覧会とアイヌ・コレクション」

関連シンポジウム

海外アイヌ・コレクション調査のこれまでとこれから

海外のアイヌ・コレクションは、アイヌ文化の学術的な国際交流の発展において、重要な役割を果たしてきました。1980年代後半からその存在が日本で徐々に明らかになり、1990年代から2000年代にかけては、ドイツ、北米、ロシアの博物館等で集中的な実地調査が行われました。これらの海外調査の成果は、国内のアイヌ文化研究に大きな影響を与え、これまで知られていなかったアイヌ文化の側面が海外で再発見されることとなりました。そのことは、アイヌ民族の文化復興と新たな創造に大きく貢献し得る可能性を示しています。

本シンポジウムは、これまでの海外におけるアイヌ・コレクション調査を振り返るとともに、これからのコレクション研究の課題と展望について考えます。

2025年
10/13 (月・祝日)
 13:00~17:10
 会場
北海道立道民活動センター
 (かでる2・7)520研修室
 札幌市中央区北2条西7丁目
 道民活動センタービル

シンポジウムスケジュール

- 12:30** 開場
- 13:00-13:10** 開会のあいさつ
 公益財団法人アイヌ民族文化財団理事長 常本照樹
 国立アイヌ民族博物館館長 野本正博
- 13:10-13:50** 基調講演
 「欧米のアイヌ観—
 研究の役割とコレクションの形成—」
 ボン大学名誉教授 ヨーゼフ・クライナー
- 13:50-14:30** 基調講演
 「海外アイヌ・コレクション調査の意義」
 北海道博物館アイヌ民族文化研究センター長 佐々木利和
- 14:30-15:00** 個別事例
 「ドイツのアイヌ・コレクション調査の現状」
 元ボン大学准教授 ハンス＝ディーター・オイルシュレーガー
- 15:00-15:10** 休憩
- 15:10-15:40** 個別事例
 「ロシア・アイヌ資料調査の幸運とシベリア先住民文化」
 千葉大学名誉教授 荻原真子
- 15:40-16:10** 個別事例
 「すべては1990年の「事件」からはじまった
 北米の博物館にあるアイヌ・コレクションと
 収集者ヒチコック、ディー、スターそしてキュリン」
 元北海道開拓記念館副館長 出利葉浩司
- 16:10-16:30** 個別事例
 「アイヌ近現代史資料としての物質文化・文書資料」
 文化庁調査官 田村将人
- 16:30-17:00** 討論
 「海外アイヌ・コレクション調査のこれから」
- 17:00-17:10** 閉会のあいさつ
 国立アイヌ民族博物館副館長 内田祐一

参加費：無料
定員：80名

参加方法：当日受付 先着順 ※直接会場にお越しください
お問い合わせ：0144-82-3914
 詳しくは国立アイヌ民族博物館のウェブサイトへ▶

